

令和5年度 第2回花巻市介護保険運営協議会 会議録

1 開催日時 令和6年2月8日（木） 午後1時～2時30分

2 開催場所 生涯学園都市会館（まなび学園）
3階第2中ホール及び第3中ホール

3 出席者

(1) 委員 15名

橋本純子委員 菊池 清委員 大原初美委員 多田悦子委員 狩野隆史委員
佐々木一広委員 内館憲二委員 藤本莞爾委員 柳原克浩委員 那須秀逸委員
上川亜矢委員 小木田勇輝委員 狩野敦史委員 影山一男委員 藤井廣志委員

(2) 欠席した委員 3名

高橋弘毅委員、小田島克久委員 工藤直人委員

(3) 花巻市 9名

健康福祉部長 今井岳彦

健康福祉部長寿福祉課 課長	佐藤 ひとみ
健康福祉部長寿福祉課 課長補佐（高齢福祉担当）	晴山 達也
健康福祉部長寿福祉課 課長補佐（包括支援担当）	小綿 みはる
健康福祉部長寿福祉課 課長補佐（介護給付・介護認定担当）	佐々木 潔
健康福祉部長寿福祉課 高齢福祉係長	菊池 隆則
健康福祉部長寿福祉課 包括支援係長	伊藤 幸恵
健康福祉部長寿福祉課 介護給付係長	藤原 美紗子
健康福祉部長寿福祉課 介護認定係長	有戸 裕美子

4 議題

花巻市高齢者いきいきプラン（素案）について

5 議事録

(1) 開会 (佐々木課長補佐)

令和5年度第2回花巻市介護保険運営協議会を開会する。

開会に当たり、今井健康福祉部長、影山会長から挨拶頂く。

(2) あいさつ (今井健康福祉部長)

本日はお忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、委員の皆様には、本市の介護保険事業の運営について、ご指導ご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。昨年9月25日に開催した令和5年度第1回介護保険運営協議会では、令和6年度から令和8年度までの『高齢者いきいきプラン（高齢者福祉計画・介護保険事業計画）』の策定に向けて、国が示す指針の確認と第8期の振り返り及び課題の整理、策定スケジュールを示し、どのような取り組みが必要かご意見をいただいた。その頂いたご意見や今後の人口推計等を元に計画骨子の検討、素案の作成を行った。次期計画については、第8期の計画内容を踏襲しつつ、地域包括ケアシステムの充実に向けた事業の施策の他、令和6年度から令和8年度まで3年間の介護給付の見込みや介護保険料の設定などを記載している。委員の皆様には、この次期計画をよりよいものにするために忌憚のないご意見やご指摘をいただきたい。どうぞよろしくお願いする。

(3) 会長挨拶 (影山会長)

お忙しい中お集まりいただき、大変ありがとうございます。本日は「いきいきプラン」第9期介護保険営業計画（素案）についての検討を行う。忌憚のないご意見を頂きたい。その結果は、3月に会議があり、そのときに反映されるということですのでよろしくお願いする。

<出席状況の報告> 佐々木課長補佐

委員18名中、出席15名・欠席3名。花巻市介護保険運営協議会規則第5条第2項の規定により、委員の過半数以上の出席により、本会議は成立することを報告する。また、本会議は花巻市審議会の会議の公開に関する指針により公開する会議となる。会議の傍聴を希望する方がある場合は、これを認めること、また会議資料及び会議録を市のホームページで公開することを申し添える。

それでは協議に移らせていただく。

会議の議長は、規則第4条第2項の規定により会長となっておりますので、影山会長よろしくお願いします。

(4) 協議

(影山会長)

それでは会議を進めていく。座ったままで進行させていただきます。

初めに(1)花巻市高齢者いきいきプラン素案についての議題について事務局より説明をお願いします。

送付資料の修正箇所について、新旧対照表により小綿課長補佐説明。

花巻市高齢者いきいきプラン（素案）について、「概要版」及び「花巻市高齢者いきいきプランにかかる第8期の振り返りと第9期の取組」に沿って、佐藤課長より説明。

(影山会長)

それでは只今の説明について、委員の皆様からご意見、質疑を頂きたい。素案は結構厚いので、章別で4章は少し細かく分けて質問を頂きたい。

最初に素案の第1章、計画策定にあたって質問如何か。第1章は、決まり文句なのであまりないかと思います。

それでは第2章、花巻市の現状とこれまでの振り返りに関して如何か。

特に第2章は、花巻市の地域別の現状についても書かれている。第2章は8期の振り返り9期における課題整理があるので、この辺の整理についてもご意見があればお願いしたい。

それでは3章に移っていく。計画の基本的な考え方です。

それでは4章、施策の具体的な展開について、ここでは新規の評価指標が提起されている。最初に施策目標の1、41ページから43ページまでのところで質問、意見如何か。

それでは私の方から、施策目標の1の評価指標の数字ですが、関連した数字が素案の33ページのところに令和2年「生きがいを持って暮らしている高齢者の

割合」が71.9%、令和4年は58.9%と大きく下がっており、これも踏まえた上で、令和6年度は61.5%、令和7年度は63.0%、令和8年度は64.5と、少しずつ上げていくということだが、令和2年度は71.9%とかなり高かったが、それに向けた目標と考えてよろしいか。

(佐藤課長)

これは市民アンケートにある項目で、令和2年度71.9%だったが令和4年度58.9%と下がっている。これはコロナ禍のために、外出が規制されたりしたために下がってしまったのではないかと分析している。これが徐々に回復し、それに向けて進めていきたいとし設定している。

(影山会長)

ありがとうございます。この数字はどういう観点で上げたのか知りたかった。他に如何でしょうか。それでは特になければ施策目標の2、「高齢者健康づくり」のところは如何か。ここも、評価指標のところ「心身ともに健康だと感じる高齢者の割合」が6年度、7年度、8年度60.0%で、全然増えていない。ここをもう少し上げていくとか考えられるものなのか。

(佐藤課長)

こちら市民アンケートによる項目であり、過去5年間を見ると大体58%のところで推移している。現状より、それが少し上がればということで設定している。

(影山会長)

ありがとうございます。「概要版」と「花巻市高齢者いきいきプランにかかる第8期の振り返りと第9期の取組」でも説明があったが、高齢者が私達が子供の頃考えていた高齢者と今の高齢者は大分違い、オンラインとかのデジタル機器も結構使えるという前提で、本文ではオンライン等と簡単に書いていると思う。説明ではタブレットとか、そういうものを使うというふうに説明があった。オンライン等とは具体的にどういうことか、ちょっと分りづらかった感じがするが如何か。

(小綿課長補佐)

オンライン等と説明を簡略したが、タブレットを使って遠隔で自分の家に居ながら一緒に体操することや、外部の人に委託してカラオケ機器を使いながら口腔機能の体操や体を使って行うなど、リズムをとっていくことで色々な介護予防治療を取り入れることをモデル的に実施している。

(影山会長)

ありがとうございます。他の委員の方如何ですか。

(菊池委員)

今、会長が言った44ページの「心身ともに健康だと感じる高齢者の割合」令和6年度60%、令和7年度60%、令和8年度60%のところですが、この58%だったのは、ニーズ調査のどこか。ニーズ調査の103ページだと思っていたが、そこでないということか。

(佐藤課長)

ニーズ調査ではなく、市民全体に対して行っている市民アンケートの中に「心身ともに健康だと感じる割合」というものがあり、その中から65歳以上の方を抽出し、65歳以上の方が健康と考えている割合を指標としていきたい。

(菊池委員)

そうすると103ページの一般高齢者、それから要支援者等を含めた全体の現在の健康、これ多分主観で、厚生労働省の設問の趣旨で主観だと書いてあり、そのときに一般高齢者は8.5%しか「良い」と回答しておらず、「まあ良い」と合わせて70.4%。それともちょっと乖離し、ちょっと違うことでよいのか。ここは、あなたの健康状態について主観で答えていると思うので、こちらは、とても良と答えている人もまた少ない。実際そうだと思います。すごくこちらは少なく、気になった。厚労省により全国で行っている調査と思う。東京都は一般の高齢者が17%とか18%である。大阪でも 13%とか14%とか

である。全体の満足度とか、とても良いも85%とか83.9%とか結構高かった。その割に花巻は、とても良い健常者というか一般の高齢者、要支援でない人も、たった8.5%しかないのがすごく気になった。それを比較すると、この60%というのは、どういうことかと思いましたので教えてください。

(佐藤課長)

市民アンケート結果である。市民アンケートだと、元気な方が回答する割合が高く、それで高く出ているのではないか。ニーズ調査については、65歳以上の方を対象としたものであることからではないかと思う。

(菊池委員)

以前、すごく低くてびっくりし質問をしたら、これはニーズ調査からのものとの返事だった。そうすると、ニーズ調査と花巻市で行っている調査とは、どういう整合性があるのか。普通、私達が答えるときも「いいかなって」いうので答え、「すごく良い」と答える人はあんまりいないかとは思いますが。でもあまりにも少なく、他の市町村をちょっと見た。これをもとに、第9期とか第8期を作っているとすれば、ちょっと離れすぎていると思っただけです。

(今井部長)

まちづくり市民アンケートとニーズ調査は別に行っており、設問項目に対する回答項目の相違が影響しているかと思う。今回は、まち作り市民アンケート資料を持ってきたが、ニーズ調査の結果と整合性という部分では、時間いただければと思う。評価指標につきましては、今回、新たに設定したが、このままでいくのか、ニーズ調査で行くのか打ち合わせをさせていただければと思う。

(影山会長)

ありがとうございます。指標のもとにあるアンケートの調査名の市民アンケートとかを書けば、それではっきりするのではないか。

それでは施策目標の2に関して他にご意見如何か。はい、どうぞ。

(大原委員)

45ページ②の地域介護予防支援事業の通いの場について、オンラインでの実施はどのようにカウントされていくのか。それから、オンラインで何人かで一緒にやったとなると団体数に入ってくるとすれば、第9期の6年度以降は、もっと数値的に増えてもいいのではないか。

(小綿課長補佐)

通いの場におけるオンラインの活用は、通いの場において「いきいき講座」という講座を開設している。その中で来年度のメニューにカラオケ機器を使う講座で申し込みを受けている。オンラインを活用して、他の団体を超えてというところは、今のところは市民対象に広くというところに今着目しておりますので、団体と団体を超えたところは、これからの検討事項と考える。

(影山会長)

ありがとうございます。よろしいか。

(大原委員)

ということは、数値的には今のところ、まだこのままで、載せる予定はないということか。

(小綿課長補佐)

コロナが5類になり、今立ち上げについて支援の方を始めているところですが、今までの通いの場の増加見込みから、9期の目標については3団体ずつということで3ヶ年計画を立てた。

(大原委員)

大迫、東和、石鳥谷や花巻と地域差があると思うが、そういうふうなところをこのような特徴的な機器を使ってカバーしていけるという点で非常に評価できると思う。どうしても集まりにくい場所とか地域については、こういうふうな活用も必要になってくると思う。また、これからも高齢者は、多分そ

のような活用も可能になってくるだろうと思うので大変いいことだなと思って感じている。

(影山会長)

ありがとうございました。施策目標の2については以上でよろしいか。続きまして施策目標の3について如何か。

(柳原委員)

素案53ページ。先ほど地域連携パスの活用件数などの説明があったが、恐らくケアマネジャーが担当している利用者が、総合病院とかに入院したとき、家で5年間生活していた、主治医の先生はこういう方というような情報を病院に送ることだとの説明だったと思うが、この800という件数はどのようなカウント件数が確認したい。

(佐藤課長)

こちらは介護保険の給付実績の方から加算を取っている状況でカウントしています。

(柳原委員)

入院加算と退院の加算とあるが、どちらも合わせた件数か。

(佐藤課長)

はい。両方合わせた合計件数です。

(柳原委員)

そうすると。例えば今回の介護報酬の改定により、今までは7日以内に送れば、なんかしらは加算を取れたが、今度から3日以内に送らないと何らかの加算が取れない状況になっている。例えば加算を取れないから、ケアマネジャーが情報を出さないということもあり得ない。加算が取れない5日以内などに出した場合は、ちょっとカウントされなくなる可能性が高くなってしまう。そのところがちょっと心配だった。退院のところですが、退院の加算は恐

らく入院の加算より少ないと思う。そのケアマネジャーが総合病院から得た情報を主治医に伝えたり、FAXしたりという見えないところでの連携は、カウントされないと思うが、ちょっとその辺がちょっと800に届かない可能性、もしくは見えないところでかなり800以上の件数を行っているというような、乖離が起きるのではないかと心配しお聞きした。

(佐藤課長)

過去の3年間からちょっと伸びていくようにというような設定をしたが、その報酬改定の影響をどのように見るか、目標の設定の仕方を検討したいと思う。加算に表れない見えないものも、すごく大事と思うが、それをカウントするとなるとケアマネにも負担をかけることになることから、負担をかけない方法で進捗状況を測れればと考えている。

(柳原委員)

かなり計算するのは難しいかと思うが、頑張ってやっておりますので、よろしく願います。

(影山委員)

他に如何でしょうか。私も地域連携パスの具体的にイメージかわからなかった。今、専門家の方がわかっている中身なので、少し我々素人でもわかるような説明があるといい。また専門家同士で、どうカウントするかは今後の課題だろうと思うことから、詰めていければなと思う。

(佐藤課長)

わかりました。

(影山委員)

あと、ACPというローマ字が出てくるが、アドバンスケアプランニングということだが、専門用語なのでコメ印をつけて説明いただければと思う。よろしく願います。施策目標の3、他に如何か。はいどうぞ。

(菊池委員)

ニーズ調査で95ページにおいて「相談する人がいない」が凄く多かった。要支援については、いろいろ施設の方とかお世話になっている方にもできるかもしれないが、そのような人はいなくても30%以上を超えている。また、102ページの災害時に避難できるか不安だという人が全体では39%だが、要支援者等では60%を超えてる。それから、あと121ページの成年後見制度に関する窓口を知らないという人があった。そういう相談する人がいない、それから避難できないか不安だった。それから、成年後見制度を知らないという人がいっぱい居たということになると、ちょっと不安だと思った。災害時という項目あるけれども、そのことを少し知らせることが必要なのかと思った。ニーズ調査とこの計画を観てちょっと思ったので、そのところもよろしく願います。

(佐藤課長)

相談できる場所、高齢者の総合相談窓口は地域包括支援センターになりますが、ニーズ調査の中でも認知症の窓口がどこか知らないという回答もあり、地域包括支援センターの周知を強化していく必要があり、ホームページの充実等に取り組んでいく。

(今井部長)

今の話は、高齢者福祉にとどまらず、地域福祉の課題でもあり、地域の色々な繋がりとか関わってくる。また災害時の支援ということになると、そこは防災危機管理課になる。そういう部分では高齢者福祉ということだけではなく、連携しながら周知については進めていきたい。

(影山委員)

施策目標の3、よろしいでしょうか。それでは、施策目標の4介護保険サービスの充実のところ如何でしょうか。

(内館委員)

71ページ括弧2の①人材確保の部分の家賃補助。今年度から始まった事業ですが、ここに記載ある同じようなことが、今後3年間続けて実施されるということを元に、我々としても花巻市内の施設で働いてもらえば、花巻に家賃補助制度があるから、ぜひともうちに応募してくださいというようなことができるというふうに考えてよろしいか。

(佐藤課長)

3年間実施する予定となっている。

(狩野隆史委員)

今の件ですが、お仕事セミナーというのがあり、市役所の方と一緒に介護現場の職員たちが高齢者施設の状況を説明している。そのときに、もう少し詳しく、奨学金とか家賃補助とかの話をしてくれれば学生たちも少し乗ってくると思うので、その説明の時間を少し長く取り、アピールしていただければと思う。

(影山委員)

他にどうぞ。

(多田委員)

71ページ②介護人材の定着の支援というところですが、介護離職の方が多いという実情を考えてということだと思うが、これには指標とかないのか。例えば、介護をする人が楽になるような介護補助器具とか、そういったものを各施設で普及するとか。できるのかどうかわからないが、そういうふうなものの指標。働く人が楽になるような体制の見直しというか、その辺の推進というものに向かっていかないのかというふうに思います。

(内館委員)

私の方から説明させていただきます。まず補助金についてですが、こういったICTとかロボットとかの補助金というのは、毎年県単位で募集をかけており、来年度も同じような形でされることになっております。各施設が、各

施設ごとに考えて、こういう機器が欲しい。こういうのがあったら働きやすいものを選定する。ただ、その選定する機器は国により決まっており、それ以外のものを選ぶことができない。国は、これが最も業務省力化に繋がるものというのを選定しているので、それから選び、それぞれの施設が補助金を使って導入するという仕組みとなっており、今後も続く予定になっている。

(橋本委員)

今の介護人材の件で、70ページの評価指数指標が今回初めて、多分明記されたかと思いますが、今年、令和5年度の数字はどれぐらいか。それを基にこの60%としていると思いますが、今低いので上げていくものなのか、今の状況そのまま保っていくという考え方の数字なのか教えていただきたい。

(佐藤課長)

令和5年3月末時点の数字が64.4%ですが、不足していると回答した法人の割合が下がっていけば良いというもの。

(狩野隆史委員)

何法人ですか。

(佐藤課長)

市内で介護保険事業を運営している全ての法人で約70法人です。

(橋本委員)

わかった。

(影山会長)

他にご意見、質問如何でしょうか。

(佐々木委員)

介護サービスが充実している中で、最近の傾向ですが、私は大迫地域ですが、隣の町で通所介護事業所が閉鎖することが最近あった。個人的な問題や

経費の問題、様々な事業展開の関係があるのかもしれないが、今、既存の所も閉鎖していき、サービス利用ができなくなるので、近隣の方に切り替え利用の希望がありますが、キャパが無く受け入れが困難になってくるケースがあり、もしかすれば同じ介護保険料を払っても、地域によってはそのサービスの充足が足りないということが、これからもしかすれば増える可能性がもしかすればあるかなという危惧している。実際のデイサービスは毎年利用人数に結構、波があり、同じ経費を投資している割には収益に波がある。私は、県の高齢者の施設協議会のデイサービス部会ですが、結構閉めてきている。デイサービスは効率の面だとかで、それだけではないが、将来推計とすれば、地方によっては小さいエリアにすれば、サービスの充足で不足する傾向があるのかもしれないと、ちょっと気にしていた。今後、事業所の提供できるサービスの数の維持や、そういうものも少しアンケートとは言わないが、少し推計をとってみないとギャップが出てくる可能性はないのかと、ちょっと心配があり危惧していた。

(影山会長)

ありがとうございます。予定の時間を超えていますが、施策の方はよろしいでしょうか。5章の方は、これまでも検討をしていたでしょうか。介護保険給付費の見込みと介護保険料の算出、5章、6章意見等如何か。

(大原委員)

訪問介護について国の改定で引き下げをするということが出てきた。閉鎖あるいは縮小等の心配がないか。これは住民の方々の心配です。統合や採算が合わないと近場の所が無くなり、大きな事業所に通うことになる。遠くから通うヘルパー。デイサービス等だと、いろんな設備等あるが、とても経費をかけられないということで閉鎖に至るところがあるようです。ヘルパーは人が変わればよく、メンテナンスも必要ないという国のとらえ方なのか。ヘルパーに対してや何についてもそうですが、加算を取れるのは非常に限られた範囲である。冬場の時期の燃料経費とかあるいは交通事情の面での市独自あるいは県に要望して、冬季加算というのは考えられるのか。

(今井部長)

今のお話ですが、今年度、県の方で医療と高齢者施設に対して補助があった。市では県の補助対象以外のところに対して、県と同額の補助をしている。今後につきましては、見えないところであり、これを全ての市で単独となると、財政的にかなりのものになりますので、なかなか単独では難しいと思います。基本的に、そういうものは国の方で、例えば介護報酬とかで見るべきものであるというのが基本であり、難しいのが現実だと思います。

(大原委員)

無理とは思いながらも話してみましたけれども、いずれも利用者にとって本当に不便のないように利用していけるような体制でやっていていただきたいのが希望です。

(影山会長)

はい、ありがとうございました。地域特性で、地域によってはうまくいかないとかの問題が出たときに、市としてきちんと対処していただける。そういう問題点があれば、こういう問題があるという事を挙げていただければよろしいのではないかと。時間も過ぎてしまいましたが、素案についてのご意見等はこれで終了させていただきたいと思います。今日配付されたFAXでご意見について、簡単に説明していただければと思います。

(佐々木補佐)

この場で、今回の計画に対する意見できなかったことについて再度、こちらによりご意見いただければ、その内容を検討し、反映させたり、材料にしたい。2月15日までちょっと短い時間ではありますが、ご意見等あったら、FAX等で頂きたい。

(影山会長)

ありがとうございました。私の方は議長を退任させていただきます。

(佐々木補佐)

影山会長、どうもありがとうございました。それではこれもちまして令和5年度第2回花巻市介護保険運営協議会を閉会します。第3回の運営協議会は3月下旬を予定しておりますので、日程が決まり次第ご連絡しますのでどうぞよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。